
雑巾師匠

川崎ゆきお

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雑巾師匠

【コード】

N5703N

【作者名】

川崎ゆきお

【あらすじ】

世の中で触れてはならぬもの一つに人外のものがある

「世の中で触れてはならぬものの一つに人外のものがある」
雑巾を絞り込んだような顔の老人が語り始める。

「人外とは人の外、人ではないグループに属してゐる。人は人と接してこそ人じゃ」

「人外のものとは、人で無しのようなものですか？」

「…ではない。人は人で無しになりよるが、それはまだ人の内じゃ」と、いいますと？」

「人ではない存在がある」

「幽霊とか」

「誰の？」

「死んだ人の」

「その人は、人じゃろ」

「でも死ぬと人ではなくなるのでは？」

「なくなるとは、この世から消えることじゃ」

「でも幽霊とかが」

「見たのかね。君は」

「僕は見ていませんが、靈感のある人なら、見えるでしょ」

「そこじゃよ問題は」

「はい」

「ある人には見え、ある人には見えぬ」

「そうですねえ」

「それはあてにならん」

「でも霊はいるでしょ」

「おつてもこの世の人とは関わらん」

「そうですねえ。いっぱい人は死んでますよね。いちいち幽霊になつて出てきたんじゃ煩いですしね。それで、人外のものって何ですか？」

「この世の因果とは別次元における連中じゃ」
「想像できません。宇宙人とか」
「それに近い」
「本当ですか」
「神仏のようなものじゃ」
「でも、神も仏も人が作ったものなんでしょ」
「ようなものだ」と申したはずだ」
「ようなもの？」
「そうじゃ」
「で、その人外のものが、どう問題になるのですか？」
「接してはならんということじゃ」
「でもそんなもの、接する機会なんてないですよ」
「君の中におる」
「なんとなく分かりました師匠のおっしゃる意味が」
「どう分かった？」
「人外という言葉を使ったかっただけなんでしょ」
「老人の顔はさらに絞り込まれた。」

了

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5703n/>

雑巾師匠

2010年10月9日10時35分発行